

完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付:2022年4月15日

事業ID:助成契約書に記載のID2020565194
事業名:渚の交番準備事業(岡山・真庭)
団体名:(一社)北房観光協会
代表者名:代表者 石井 秀明 印
TEL:0866-52-3009
事業完了日:2022年3月31日

■契約時

事業費総額	:	6,240,000 円
自己負担額	:	1,250,000 円
助成金額	:	4,990,000 円

■箇所は【フォーム】収支計算書より自動転記

■事業完了時

事業費総額	:	6,273,265 円	収支計算書の黄のセルの値
自己負担額	:	1,283,265 円	収支計算書の緑のセルの値
助成金額	:	4,990,000 円	収支計算書の赤のセルの値。千円未満は切捨
助成金返還見込額	:	0 円	(収支計算書の青のセルの値)

1.事業内容

助成契約書記載の事業内容(予定)と、事業完了時の事業内容(実績)を対照可能とするため、助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の事業内容欄を転記した上、体裁を変えずに結果を記入してください。
なお、事業内容を複数設定している場合は、各事業内容ごとの完了時の実績を個別に記入してください。事業内容が4つ以上ある場合は、一つの事業内容ボックスに複数ご記載頂いて構いません。

■事業内容1

(1)助成契約書記載の事業内容(予定)

1.渚の交番(岡山・真庭)の建設準備
(1)時期:2021年3月~2022年3月
(2)場所:岡山県真庭市下皆部
(3)内容:
a.里山・里海教育プログラム(海洋教育プログラム)の開発



(2)事業完了時の事業内容(実績)

1.渚の交番(岡山・真庭)の建設準備
(1)時期:2021年3月~2022年3月
(2)場所:岡山県真庭市下皆部
(3)内容:
a.里山・里海教育プログラム(海洋教育プログラム)の開発
・体験プログラムを7回実施
・教育プログラムを2回実施
・エコイベントに1回出展・協力

(3)成功したこととその要因

コロナ下でも屋外で実施可能な体験プログラム、教育プログラムは概ね実施でき成功と言える。地域の特徴的な自然、歴史、ホテルの不思議な生態を知り、それを守ることが海を守ることにつながるといった講義、海と水のつながりを体感できる鍾乳洞散策などを実施し、参加者から好評を得た。

(4)失敗したこととその要因

体験プログラムのうち、参加者が密になるものや大勢を集めるイベント(カヌー体験、源流里山アウトドア体験など)については、コロナの影響で実施できなかった。

(5)事業内容詳細

・体験プログラム…里山散策などを7回実施し、48人が参加した。
・教育プログラム…超・水の学習などを2回実施し、90人が参加した。
・その他…真庭市が主催した「里山真庭エコマルシェ」に出展・協力し、海ごみについて考えるクリーンアップ活動(四季彩湖のゴミ拾い)、プラごみ削減のためのフードイベント、水遊び体験などを行った。

■事業内容2

(1)契約時の事業内容

1.渚の交番(岡山・真庭)の建設準備
(1)時期:2021年3月～2022年3月
(2)場所:岡山県真庭市下皆部
(3)内容:
b.渚の交番真庭の運営のための人材育成



(2)事業内容の実施(完了)状況

1.渚の交番(岡山・真庭)の建設準備
(1)時期:2021年3月～2022年3月
(2)場所:岡山県真庭市下皆部
(3)内容:
b.渚の交番真庭の運営のための人材育成
・研修会を4回実施
・検討会を2回実施
・その他(次世代の人材育成プログラム)を1回実施

(3)成功したこととその要因

研修会では、参加者が、事業の趣旨などを十分に理解して、未来の環境について重要な事業であることに賛同してもらえた。

(4)失敗したこととその要因

建設準備については、コロナによる材料高騰、材料入荷遅れなどで設計見直しや建設の遅れに伴い付随する準備も遅れた。

(5)事業内容詳細

施設運営のための人材育成として、観光協会のマネージャーによる研修会を4回行い、施設コンシェルジュの育成を行った。また、施設開所に向けた準備として、先行して本プロジェクトに取り組む「ひなせうみラボ」との意見交換会を実施した。その他、次世代の人材育成として、地域の子どもたちを巻き込んだ映像制作・発表も実施。47名の子ども達が、ホタルや水の循環について学んだことを映像収録に参加できネット上で動画配信して意識向上に役立った。

■事業内容3

(1)契約時の事業内容



(2)事業内容の実施(完了)状況

(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

■事業内容4

(1)契約時の事業内容

(2)事業内容の実施(完了)状況



(3)成功したこととその要因

(4)失敗したこととその要因

(5)事業内容詳細

2.契約時事業目標の達成状況：

(1)助成契約書記載の目標

助成契約書と一緒に綴じている「事業計画」の目標欄の内容を転記してください。

教育、体験、研究のプログラムを継続的に行い、子どもたちや親子が楽しみながら自然環境学習に取り組めるフィールドとなることを目指す。また、備前市日生など他の渚の交番拠点と連携したプログラムを行い、山の子どもたちがより海を近く感じるような環境をつくっていく。このことで、里山と里海がパートナーである意識を育み、山は海を大切に、海は山を大切にする活動に双方が関わる仕組みを構築することで、里山環境と海洋環境をつなぐことができる人材を育成していく。そして、里山から里海の価値を発信するモデル地域となる。

(2)目標の達成状況【700文字以内】

入力文字数	161	文字数チェック	OK
-------	-----	---------	----

事業完了後の目標達成状況を700文字以内で明記してください。

※目標を複数設定している場合は、各目標ごとの達成状況を個別に記入してください。

- ・体験プログラム実施回数 12回(延べ120人)の目標に対して7回48人の参加者となった。
- ・教育プログラム実施回数 2回(延べ80人)の目標に対して2回90人の参加者となった。

3.事業実施によって得られた成果

・体験プログラム実施回数 12回(延べ120人)の目標については、コロナの影響下に関わらず屋外での実施ということで目標数には達しないものの7回48人の参加者があり、コロナ後、次年度以降の事業実施に手ごたえを感じている。
・教育プログラム実施回数 2回(延べ80人)の目標については、2回90人と達成できており、次年度以降も順調に成果を出していきたい。
拠点施設ができ運営が軌道に乗った際には、年間を通じてプログラムが稼働し月に教育。体験プログラムを20回、教育旅行を10団体受け入れていくことをイメージしている。

4.活動を通じて明らかになった新たな課題と対応案

コロナ対策を徹底することが目下の課題。プログラムの実施については、現在の状況であれば多人数、密にならないものに限定されるが、コロナが終息すれば活発に宣伝募集し、他の渚の交番施設(ひなせうみラボ等)と連携し、参加者拡大に取り組んでいきたい。
なお、屋外での実施を中心とした体験プログラムについては、本年度の実績から手ごたえを感じている。拠点施設が完成すれば、施設の強み(VR映像など)を活かした学習プログラムが展開できるので、教育旅行など参加者拡大に期待できる。

5.事業成果物

(1)助成契約書記載の成果物名称

・体験プログラム実施回数 12回(延べ120人)
・教育プログラム実施回数 2回(延べ80人)

(2)事業完了時の成果物名称

・体験プログラム実施回数 7回(延べ48人)
・教育プログラム実施回数 2回(延べ90人)
(チラシ・ポスター類は制作しておりません。)



(3)未作成となった要因

契約時の事業成果物で作成していないものがある場合は理由を記載してください。
チラシ・ポスター類は制作しておりません。

(4)成果物を登録したウェブサイトのURL

成果物の登録方法については、こちらをご確認ください→ https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2019/03/gra_gui_01-1.pdf (なお、事情により、公開が困難な成果物に関しては、表紙のアップロードをお願いいたします。)

上記で登録したURLをご記載ください。

※700文字を越えたら

文字数チェック欄に「700文字を越えています。700文字以内になるようご調整ください。」と表示され
入力のセルが赤色になるようにしています。